

# 増穂だより

vol.235

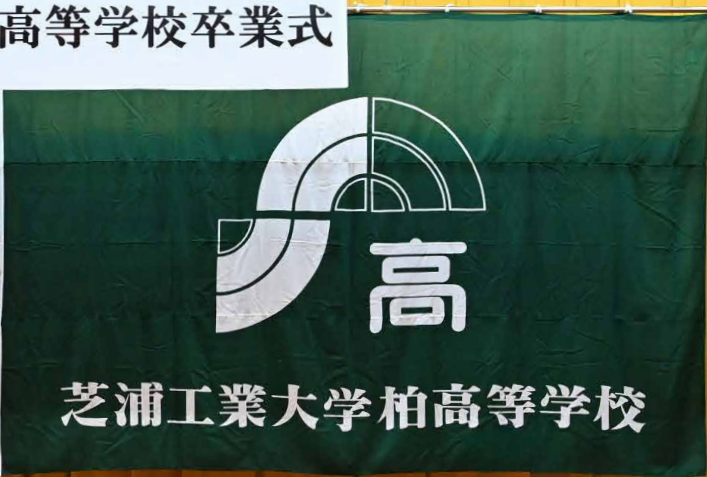


芝浦工業大学柏中学高等学校 〒277-0033 千葉県柏市増尾700番地  
TEL : 04-7174-3100(代) FAX : 04-7176-1741  
URL <http://www.ka.shibaura-it.ac.jp/>

■編集/芝浦工業大学柏中学高等学校 総務部  
■発行日/令和6年3月23日 発行  
■印刷/株式会社横浜総合写真



## 芝浦工業大学柏高等学校卒業式



### Contents

■巻頭/生徒探究発表会	2P	■トピックス/Webコンテスト	6P
■学年情報(中学/高校)	3P	■PTA情報/後援部情報	7P
■中学合唱祭	4P	■トピックス	8P
■高校第42期生卒業	5P		



## 「伝える」とは

日常の会話のなかで、自分の真意がなかなか相手に伝わらないという経験をしたことはありませんか。自分の考えを正確に理解してもらうことは、意外と難しいことです。

これが特別な場面であれば、真意の伝達はより重要です。たとえばプレゼンテーションやポスターセッション、キャリアの問題では大学入試や就職の面接、さらには仕事上でのプレゼンテーションなどと、今後の人生において、重要度の高い場面で相手に伝えることを何度も経験するでしょう。

ここでは大学入試の面接指導を例に、伝えるということを考えてみます。私は以下の点に留意して指導を行っています。

大学入試の面接においては、志望動機の説明がもっとも重要です。大学・学部の選択理由、大学でめざす研究内容、大学卒業後の展望など、大学および卒業後の自分が描く方向性を示すことです。また、選択した内容へのこれまでの関わりも示すことも大切です。すなわち、自分の過去・現在とともに、大学入学以降の未来の設計を伝えることにもなります。大学によっては、この説明に対して時間の制約を設定している場合もあります。私は、制約がない場合でも2分以内で話すことを推奨しています。人間は1つのことに集中して理解しながら聞くことができる限度は2分以内といわれ、それ以上話しても内容がうすまり、真意が伝わりにくくなるからです。

次に志望動機を推奨しています。これは、ポイントを書き加えるのではなく、原稿を書くことで、自分が所定の時間内で話せる字数・内容を認識する目的としています。さて、1分間で話せる字数は、どれぐらいでしょうか。訓練しているアナウンサーは、ニュースでは1分間に300字程度話しています。私たちはこの速度では話せませんし、面接の場合には相手に内容が伝わることを考慮して、1分間に250字前後を標準としています。なお、原稿作成の理由は、自分が伝えたいことを時間内でまとめられるか、そのためにはどのように内容を取捨すればよいかを確認するためであり、当日読み上げる原稿を作成するためではありません。原稿を暗記しても、思い出すことに終始してしまい、気

松原 誠司

持ちを込めて話すことは難しくなります。当日の面接までに、原稿を基に自分が伝えたい要点を整理して、その内容を、相手に伝わるように気持ちを込めて語り掛ける準備へと切り替えます。

この他に、過去の面接での質問内容や本人の志望理由書を基に、当日想定される質問への準備を重ねます。

また、答え方などについて、以下のアドバイスも行います。

- ①相手が理解しやすいように話す。例えば、まず結論を伝えてから理由を述べる。強調する説明の前は、間をおくなど。
- ②簡潔に話す。これは、内容をわかりやすく伝えるとともに、面接時間のなかで多くの質問をしてもらうことで、自分への理解を高めてもらうことを考慮した対応でもある。
- ③回答内容が複数ある場合には、主要なものから伝える。こうすることで、後半の要素を省略しても影響は少なくなる。
- ④相手の理解を確認しながら話す。基本的には、相手の顔の上半分をみる。複数の試験官がいる場合には、メインの人を見ながらも、時々周囲の試験官にも目を配る。
- ⑤面接では緊張して早口になる傾向があるので、とくに面接の最初の段階では意識的にゆっくり話す。

などです。面接では、当然メモなどを見ることはできません。用意してきた内容を、質問により合致した形で回答をまとめることとなります。学校でのプレゼンテーションやポスター発表などで、原稿を読み上げている姿もみられますが、自分で要点を理解して、聞いている人々の理解を確認しながら、説明できるように準備しておくことが望ましいでしょう。

以上、入試の面接を例に相手に伝えるうえでの留意点をまとめてきました。このなかには、テクニク的な内容も含まれていますが、もっとも大切なことは、聞いている相手をリスペクトすることです。相手を尊重することにより、自分が伝えたい内容を相手に理解してもらうという気持ち・思いが高まり、相手の理解を通じて、話の内容が伝わるのです。簡単なようで難しいことですが、だからこそ普段から相手のことを気に留めながら話すことが、その第一歩といえるのです。

して開催しています。今年度は、時間の限られたプレゼンテーションのあとに、比較的自由に議論ができるコアタイムセッションも設けました。生徒たちは、他の生徒や来場した参観者と質疑応答を活発に行い、自らの探究をさらに深めることができていたようです。また、6名の卒業生がTA（ティーチングアシスタント）として参加し、卒業生の立場からの的確なアドバイスをもらうことができました。

発表会後には、教育関係者を対象とした情報交換会が開催されました。探究学習の指導方法や評価方法をめぐって本校教員との間で活発な議論が行われました。



## 学年情報

### 中学1年 中学25期生 近況報告

入学して1年が過ぎようとしております。保護者の皆さま、生徒達を毎日元気に送り出していただき、感謝申し上げます。

学校生活では、クラスで一致団結して文化祭や運動会、合唱祭に取り組むことができました。また、視覚障がい福祉体験や百人一首大会などの行事にも積極的に取り組む姿が印象的でした。

生徒達を見ていると、心も体も少しずつ大人になっていくのがわかり、顔つきもひきしまつて、この一年の成長を感じさせられております。部活で活躍し表彰される人や生徒会に立候補し来年度に向けての意欲を全体に向けて話してくれる人など、リーダーシップを発揮する生徒も増えてきました。本当に頼もしい限りです。

引き続き、相手を思いやる気持ちを持ち、お互いを認め合い、ともに協力できるような集団づくりを目標に日々生活していきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

### 高校1年 絆 ～芝柏 Family～

2/27(火)56限で「学年レク」を開催。種目はドッジボールとクラス対抗リレー。

ドッジボールは、トーナメント戦(※敗者戦あり)。クラス対抗リレーは、担任も含めてクラス全員で2800mをバトンでつなぐ(※50mと100mの選択制)。

今回の学年レクを通じて、クラス内はもちろん、学年全体の仲がさらに深まった。クラス会長(8名)および運営スタッフボランティア生徒、素敵な企画と運営をありがとう。

・ドッジボール優勝→7組

・クラス対抗リレー優勝→1組



### 中学2年 将来について考える

本年度も学年の教育活動にご理解、ご協力いただきありがとうございました。2/3(土)にソニー生命の福山弥聖さん(中学14期/高校36期卒業生)らによるライフプランニング授業が行われました。多くの生徒にとって、大学進学や職業選択に留まらない、人生全体を俯瞰する初めての機会となりました。意見を話し合い選択と修正を繰り返しながら、経済面から人生を見通してみよう、自分にかけてもらっている教育費がどれほどなのかを知り、恵まれていることに気づき、保護者に感謝するコメントも多くみられました。また将来に目を向けたからこそ、今すべきことを改めて考え、勉強を頑張ろうという意欲を掻き立てられた生徒も

あったようです。最後には福山さんがご自身の仕事を通じた「夢」について語られ、お金を稼ぐだけではなく人の役に立つことを喜びとする職業観に触れ、大いに刺激を受けた一日でした。

### 高校2年 高校43期近況報告

年明けは記述模試から始まり、1月16日には高校3年生0学期集会を行い校長先生から進路講演と激励の言葉をいただきました。1月24日と25日には、いよいよ来年に迫った新課程による共通テスト模試を実施しました。2月13日と20日には昨年度から各チームで調べてきた課題研究の最終発表を1年生と合同で行いました。そして、今年度新たな試みとして高校2年生対象の大学進学ガイダンスを3月15日に行いました。10校の大学の関係者の方に来校していただき入試説明会や模擬授業を行いました。このような経験を通して、進路に対する意識を高め、具体的な目標を定めることができましたと感じています。保護者の皆様におかれましては、食事、睡眠といった正しい生活習慣の形成と声かけなど、生活面でのサポートをお願いします。今後も彼らの活躍を期待して、時には厳しく、前向きな声掛けをしていきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

### 中学3年 自らの可能性を拓く

中学23期が幕を閉じます。振り返ると、『自らの可能性を拓く』という学年目標のもと、コロナに振り回されつつも多くの行事をこなし、子供達は立派に成長してくれました。学習面ではまだまだかもしれませんが、何よりも元気に学校に通って来てくれたこと、本当に感謝しています。

4月からはいよいよ高校45期生に進級します。新たな仲間との出会いも待っています。中高6か年でみるとステップの2年目、どんな活躍をしていくかを楽しみにしています。大学受験に向けて、大きな差がつく高校1年生ですので、今まで以上にサポート出来たら、と考えております。

最後になりましたが、保護者の皆様には3年間、学校の教育方針・取り組みへのご理解とご支援・ご協力を頂きましたことに、学年団一同、心より感謝申し上げます。

### 高校3年 【278名の旅立ち】

3月2日、第42回高校卒業式が挙行されました。当日は土曜日ということもありたくさんの方の保護者の方にお越しいただき、ありがとうございました。入学以来なかなか歌うことができなかった校歌をこの節目に全員で歌うことができたことが何より感慨深く、3年間の思い出が走馬灯のように頭を駆け巡りました。3年前の学年立ち上げの際、志を実現させるためには、できることでなく、今できないことをやり続けていく姿勢、そして先を見通す力が必要と考え、それらをやり続ける強さ、パワーをもった集団になってほしいと願った学年がスタートしました。縁あって芝浦柏に集った42期生が3年たった今、互いの違いを認め合い、支えあって、チームとして逞しい集団になってくれたと思います。

最後になりましたが、保護者の皆様には3年間、学校の教育方針、取り組みへのご理解とご支援、ご協力をいただきましたことに、学年団一同、心より感謝申し上げます。

## ◆ 生徒探究発表会 ◆

### SSH 生徒探究発表会を開催しました

2月10日(土)にSSH生徒探究発表会を開催しました。課題研究に取り組んできた高校1・2年生のほか、芝浦工業大学との連携コース(SSCⅢ)で研究に取り組んできた高校3年生、その他中高生あわせて約260名の生徒が、それぞれの探究の成果を発表しました。また、提携校であるベトナム FPT 高校の生徒も参加し、本校生徒との共同研究の成果を発表しました。

生徒保護者のほか、教育関係者約30名、卒業生、本校に入学を予定している児童・生徒も来校し、本校生徒の発表を参観しました。また、今年度は中学校3年生全員が、次年度からの探究学習に向けて発表を参観しました。体育館での対面ポスター発表が中心でしたが、各分野の代表生徒は交流館でスライド発表を行い、スライド発表はオンラインでも公開されました。

本校の生徒探究発表会は、発表生徒一人一人が発表会のなかで複数回発表と質疑を繰り返すことで、単に成果をアウトプットするだけでなく、発表会の中で発表のスキルを高めるとともに、自らの探究への理解を深めることを重視



第22回 中学合唱祭結果			
金賞	3年D組	群青	
銀賞	3年E組	正解	
銅賞	3年B組	3月9日	
優秀賞(2年)	2年B組	時を越えて	
優秀賞(1年)	1年D組	With You Smile	
伴奏者賞	2年C組	伴奏者	
指揮者賞	3年D組	指揮者	
ポスター大賞	3年A組		



送辞

ふと気がつく、登校時に正門で感じる風から暖かさを感じられ、春の訪れが鼻腔をくすぐる季節となりました。卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して、心よりお祝い申し上げます。

私達と先輩方との出会いは、新入生歓迎会でした。例年であれば対面で行われていたのですが、コロナ明けで未だにマスクの着用が求められていた時期でしたので、私達は先輩方の姿を画面を通して初めて見ました。それは部活動に一所懸命に取り組む姿、仲間と協力し切磋琢磨する姿、楽しそうに学校生活を送る皆さんでした。私達は新入生歓迎会での先輩方の姿があったからこそ、新たな高校生活に希望を抱けたのだと思います。

私は皆さんがどのようなことを経験し、今どのような気持ちでいるのかを知ることではできません。ですが、本校で過ごした3年間の思い出、友人と共に過ごした日々、これから進む期待と希望に満ち溢れた未来を思い描いているのではないのでしょうか。一方、私達在校生が思い描いていることは、先輩方と過ごした思い出の数々です。私を含め、多くの生徒がすべての先輩方と交流があったわけではありません。しかし、皆それぞれの思い浮かべる先輩方との楽しかった、嬉しかった、時には一緒に悲しんだ思い出があります。

球技大会ではどの学年よりも熱く戦い全力を尽くし、増穂祭では独自の出し物で各クラスが賑わっていました。引き継ぎを行っていく過程で感じたことですが、私達にとって、先輩という存在はとても大きく、いつも私達の進むべき道を示してくれる頼りがいのある人達でした。物事に真剣に取り組む姿勢、強い責任感、団結力と想像力の豊かさを学校行事のたびに感じました。そして今、来年から3年生になることに一抹の不安を抱えています。頼りない私達ですが、どうすれば先輩方のように立派な姿を見せられるか研究中です。

先輩方はこれからそれぞれの道を歩み始めますが、忘れないで欲しいことがあります。それは、この学校で学んだこと、共に過ごした時間の大切さです。ここで過ごした時間は変わるものではありません。

私は中学生時代、学校生活を楽しいとは思っていませんでしたが、今ではとても貴重な時間だと思っています。過去は変わりませんが、時間が経って思い返してみれば、捉え方が変わり、貴重な経験だったと思えるようになるのかもしれませんが、そして、これらの思い出は先輩方にとっては人生における宝物だと思います。私達が真っ先に思い浮かべる先輩は皆さんです。学校で一番長く触れ合ってきた先輩方、学校生活の一挙一動は先輩方の姿によるものです。それが私達在校生にとっての宝物です。

先輩方が守ってきた伝統と、先輩方が新たに築いた伝統を責任を持って私達が受け継ぎます。皆さんのように後輩をうまく引っ張ることのできるリーダーになれるかはわかりません。しかし、私達のできる最善を尽くして、みなさんと違った形になるかもしれませんが、教わったことを胸にこの学校をより一層素晴らしいものにしていきたいと思います。

先輩方がこれから進む道にはおそらく、今の私達には想像もできない苦難が複数立ちちはだかるのでしょう。そんなときは、この芝柏で過ごした日々を思い出してください。私は、学校が閉まるまで勉強に打ち込んでいる先輩方を、早朝から下校時刻ギリギリまで部活動の練習に励む先輩方を、多くの仲間とお互いを支え合ってきた先輩方のことを知っています。どんなに困難な時でも、逃げずに一生懸命に取り組んでいってほしい姿は本当に格好良かったんです。これからは私達と物理的な距離は開いてしまうかもしれませんが、心では繋がっていることを願っています。陰ながら応援させていただきます。

最後になりましたが、先輩方の一層のご活躍をお祈り申し上げ、感謝と別れの挨拶を付け加えさせていただきます、送辞とさせていただきます。

高校三年生を送る会

3月1日に高校三年生を送る会を実施しました。新型コロナウイルス感染症対策の緩和もあり、今年では4年ぶりに高校3学年が大体育館に集まって、対面で実施することができました。部活動の後輩からのメッセージ動画やダンスパフォーマンス、高校3年生の先生方からのメッセージ動画をみんなで視聴し、最後には在校生から花束が贈られました。在校生は限られた時間の中でたくさんの準備を行い、3年生へお祝いと感謝の気持ちを伝えることができました。卒業式を前日に控え、在校生と関わる最後の機会をもち、3年生は後輩からの想いを胸に翌日の卒業式を迎えることができました。

答辞

春の嵐が訪れるたびに暖かさが増し、日々春めいてくれる今日この頃、新しい命の訪れを前に、冬とともに今まであった何かが終わって行く季節となりました。そんな春を感じる今日、私たち第42期のために素晴らしい卒業式を挙げて頂きますありがとうございます。

3年前の春、コロナ禍の混沌の中、私たちは心の中に押し込んだ大きな不安を真新しい制服に隠して、きっと同じ思いを隠した沢山の仲間と、個性豊かな先生方がいらっしゃるこの学校に入学しました。それでも私たちは共に芝柏で青春を過ごしました。中でも私は同級生、先生、先輩、後輩と過ごすこの学校の雰囲気大好きでした。昼休みの包まれるような暖かい空気と雑多とした雰囲気、放課後に大切な友達と永遠に話した夕日さす時間が止まったような教室、文化祭前の活気と高揚を感じる熱気ある空気、今でも鮮明に思い出出すことが出来ます。当時は嫌だと思っていたことや退屈だったことが卒業を前にすると全てが思い出として懐かしく思い起こされます。先生方に集会で注意されたことや先生の優しくメリハリのある指導、別の教室にいても聞こえる先生の怒鳴り声、多くの人が寝ているが一部の生徒には人気があった先生の雑談、今ではすべて良い思い出です。学年団の先生方には中学からの6年間で結婚ラッシュやベビーラッシュが起き、その報告を耳にする度に盛り上がり、安堵し、私たちがまだ幸せな気持ちになったのを覚えています。その重く輝いていくかけがえのない思い出はこれから私たちの人生の糧となると信じています。

そんな学校生活の中でそれぞれ探究活動や行事、委員会など様々なことに打ち込んだことと思います。私の場合はそれが部活と生徒会でした。特に部活では活動の中で意見の違いで対立したり、試合に負けた悔しさで涙したこともありました。しかし、仲間や顧問の先生に励まされ、支えられて楽しく意欲的に活動することができ、今では素晴らしい思い出です。私は生徒会長となり、大好きだった部活を途中で辞めることとなりましたが、練習をしている仲間の背中もとても大きく頼もしく、最弱とまで言われたチームが県大会に出場した姿はとても誇らしくて引退試合の応援をした時には感極まって涙が滲み出ました。部活は辞めてしまったけれど、私は部活中にグラウンドでじゃれあっていたように、愚痴を言いながら帰ったその何気ない時間を生涯忘れません。こうした一生物の経験は卒業生それぞれにあることでしょう。

そんな高校生活の中にも生徒会長をしていた時期など辛い時期はありました。ネガティブになり、情緒も不安定となって学校に行きたく無くなるような日もありました。自分自身では良かったと思っていたことですが、傷つけたり、嫌な思いをさせたことも多かったはず。今思うと後悔や反省があることも確かです。本当にごめんなさい。

どんな時もそこに家族の支えがあったから、やりたことにチャレンジし、私たち卒業生は後悔のない3年間を歩むことが出来たのだと信じています。保護者の皆さんには生意気で身勝手に見えたかもしれませんが、それは大切な家族であるが故に照れくさく、気持ちを伝えられなかっただけで、本当はみんな感謝していること、私は思います。家に帰ると、きっとまた格好をつけてしまうので、ここで言わせてください。「ありがとうございました」18年間、これまで与えられた以上のものを恩返しし、今度は私たちが家族を支えられるよう、これからも努力し続けます。どうか私達を見守ってください。

芝浦工業大学柏高等学校で過ごした3年間ないし中学からの6年間は、人生という長い時間で見れば、ほんの些細な短い時間かもしれないけれど、42期の仲間達と共に切磋琢磨したこの時間は私たちにとても大切な宝物です。正直、今は将来への漠然とした不安と少しの期待で潰れてしまっただけ、この宝物は辛い時には支えとなり、迷う時には背中を押し、これからも輝き続けることでしょう。

最後に、僕の気持ちを話させてください。僕は本当に42期のみんなのことが大好きで、このメンバーでこの雰囲気のまま大学に上がったらずっと考えていました。辛い時には互いに励まし合い、嬉しい時は共に喜び、時には喧嘩や恋をした42期の大切な仲間達。どんな時も横で励まし、勇気付けてくれた人。アニメのような憧れとは程遠い3年間だったけれど、振り返ってみると、みんながいたからこそ、憧れを超える最高に幸せで味のある青春を送ることが出来たと感謝しています。またどこかで巡り会えた時には、この青春を懐かしみながら飲み交わすのが僕の密かな願いです。その時は放課後に語り合おうと他愛も無い話をしよう。みんな、本当に卒業おめでとう。3年間、6年間共に過ごせて最高だった。ありがとう。

そして、本校のさらなる発展と私たち卒業生が胸を張って共に探究し思いやりを持ちながら新世界に飛び立つて行くことを願って答辞といたします。

国際シンポジウムに参加しました

2月21日、22日に鹿児島市で行われた国際シンポジウムに高校2年生7名が参加いたしました。校内選考と予選を突破した学校代表の7名は、研究成果をポスター・スライドなどを用いて多くの教育関係者に披露しました。研究内容は化学、生物、地学、数学、物理、人文・社会科学分野と様々で、2年間の課題研究で培った探究力を見事に発揮していました。7名は多くの教育関係者から好評をいただき、2名が優秀賞、1名が最優秀賞に輝くことができました。以下、化学・物理・数学部門で最優秀賞を受賞した2年8組土肥侑太郎さんのコメントです。

「シンポジウム期間中は他校との交流の機会がとても充実しており、交流を通じて各々が自らの探究への情熱を再び実感すると共にとても貴重な出会いに巡り会うことができました。自らの研究内容を理解してくれる大切な仲間と出会うことができ、とても大切な思い出となりました。また、各界を代表する方々からの貴重なお話を聞くこともできました。対談会の主なテーマでもあった『内発的動機』の赴くままにこれから各々自らの進むべき道を邁進して参りたいと思います。最後に、この貴重な体験を送るにあたって引率して下さいました先生方、課題研究をサポートして下さいました先生方にここで感謝の意を表させていただきます。」



◇ 全国中学高校 Web コンテスト ◇

中学 Web コンテスト

本校の中学2・3年のワールドディの取組として、生徒がチームを組み一つのWeb作品を作り、その制作過程と成果を競う「全国中学高校 Web コンテスト」に全員が参加している。本校では成果発表の場として、校内で発表会も実施している。

2月17日、聖心女子大学に全国から選ばれたチームが集い、ファイナリストプレゼンテーションが開催された。本校からは「もっと知ろう使役犬」(中2生徒4名)、「地域創生～農業は人と人を結ぶ～」(中3生徒3名)が代表チームとして参加した。

大学教授や企業の審査員が集まる緊張した雰囲気の中で、どのチームも優秀で素晴らしい発表ばかりであった。その中で本校代表両チームは、事前の発表練習の甲斐もあり、大変元気よくインパクトのある立派な発表を行い、更には審査員の質問にも堂々とした態度で答えることができた。結果、この両チームともに金賞を受賞することができた。特に中2のチームは過去のコンテスト受賞者が選ぶ「ベストオーディエンス賞」にも重ねて選ばれた。



ベトナムから FPT 高校の生徒たちが来校

2月9日(金)～2月14日(水)までベトナムハノイから本校のパートナーシップ校である FPT 高校の生徒9名と引率教員1名が来日しました。今回のプログラムは10日(土)に行われた本校のSSH 探究研究発表会に向けて、昨年から半年間オンラインで進めてきた共同研究の成果を発表することを目標としました。当日は、両国の生徒にとって共通の言語である英語を使用し、発表や質疑に熱心に対応していました。また、日本の最新科学技術に触れることが今回のプログラムのもう1つの目標であり、長野県にある券売機やホームドアを製造している工場や鉄道車両基地などの見学を通して、高品質な日本製品の製造現場や鉄道の安全管理などを目の当たりにし、日本で勉強したい、働きたいという言葉が多く聞かれました。さらに学習だけでなく、浅草で本校生徒と散策を楽しみながら日本の文化に触れる体験でも、生徒たちの中で活発に英語が飛び交い友情を深めることができました。最終日には見送りの生徒も多く来てくれ、空港では出発ギリギリまで手を振ったり、中には飛び立つ飛行機を見送ったりした生徒もいたとも聞いています。それだけ、両国の生徒たちの間で半年以上にわたる交流を通して、英語力の向上だけでなく何かしらの絆が芽生えたと確信しています。



高校 Web コンテスト

2/17(土)、聖心女子大学にて第26回全国中学高校 Web コンテストのファイナリストプレゼンテーションが行われ、高校からは高1・高2それぞれ2チームずつ参加しました。当日は各チーム3分のプレゼン・質疑応答を行った後、審査員による最終審査が行われました。その結果、高1チーム「海水淡水化完遂計画」が最優秀賞・文部科学大臣賞(全体1位)を受賞し、全国223チームの頂点に立ちました。また、高1「「見えない」脅威 音響汚染」がプラチナ賞(全体4位)、高2「自分の推し党を見つけよう!」[米粉-日本の虎の子]が金賞をそれぞれ受賞し、改めて本校の技術力・プレゼン力の高さを証明した結果となりました。昨年果たせなかった最優秀賞を奪還することができ、次年度本校はディフェンディングチャンピオンとして迎えることになります。今後も生徒・教員一丸となって初心を忘れず精進して参ります。指導・応援して下さいました皆様がこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



P T A 情報

2023 年度 PTA 活動報告

PTA 会長

本年度の活動内容といたしまして、7月と2月に高2・中3対象の仕事塾、9月に一般来場者を迎えての増穂祭、12月に相田一人先生をお呼びした文化講演会、各学年のクラス懇親会を行いました。3月には中3の巣立ちの会を開催予定です。また、花壇整備活動の方も学年の垣根を越えて活発に活動できました。この1年間、保護者の皆様、先生方のご協力のもと、ようやく平常年度の活動ができましたこと、大変感謝しております。来年度も引き続き保護者の皆さまのご理解とご協力をよろしく願います。

中1 学年代表

コロナ禍は収束したものの、引き続き何度も感染症が流行し、各自が良く対策をしながらの一年間となりました。増穂祭、運動会、合唱祭、校外学習などを通し、生徒同士の交流を深めることができましたことをとても嬉しく思います。一年間、先生方をはじめ、保護者の皆様、幹事の方々には大変お世話になり、本当にありがとうございました。

中2 学年代表

今年度は昨年より更にコロナ禍の制限が緩和され、行事も盛大に行われました。増穂祭では4年ぶりにシバカシドッグが復活し、製造に携われたこと、嬉しく思いました。クラス懇親会では子供達の普段の様子を知ることができ、有意義な時間となりました。皆様1年間ご協力ありがとうございました。

中3 学年代表

昨年5月にコロナが5類に移行となり、各行事が通常開催できたことに感謝と安堵が入り混じった一年となりました。保護者の皆さんも各行事に積極的に参加いただき、保護者同士の関わりを深められたと思います。中学三年間、先生はじめ幹事の皆さんに大変お世話になりました。この場をお借りし、御礼申し上げます。

高1 学年代表

増穂祭の参加・クラス懇親会の準備が主な活動でした。幹事である私たちが楽しく活動することにより、保護者の皆様にも良い交流の場を提供できると

考え、各行事に携わってまいりました。学年代表としては力不足で至らぬ点もありましたが、メンバーに恵まれ、先生方のご協力もあり、無事に終えることができました。心から感謝申し上げます。

高2 学年代表

本年度はコロナ禍の制限なく活動することが出来る様になり、増穂祭では生徒の皆さんに負けない位盛り上がり、クラス懇親会では日頃の学校生活を知る有意義な時間を持つことが出来ました。至らない代表ではありましたが幹事の皆様や先生方にお助け頂き感謝の気持ちでいっぱいです。1年間本当にありがとうございました。

高3 学年代表

高校生活最後の年になってようやくコロナ禍前の生活に戻りホッとしました。クラス懇談会、増穂祭「小腹茶屋」、卒業対策など、皆さん受験生の親でありながら、忙しくも楽しく取り組んでくださいました。担当幹事さん達の積極的で献身的な働きぶりには本当に頭が下がります。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

仕事塾報告

仕事塾は高校2年生(7月)、中学3年生(2月)を対象に保護者がアドバイザーをつとめる学校のキャリア教育支援活動です。

様々な業種・職種に就いているアドバイザーが「仕事」や「働くこと」について、学生時代から今に至るまでの変遷やまた自らの経験を通し今やっておいた方がよい事などを話し、生徒達からの質問に答えました。また、2月の仕事塾では全学年に枠を広げた午後の部もコロナ以降復活開催し、学年を問わず生徒達が足を運んでくれました。

仕事塾を通して、学校での学びが「仕事」や「社会」とどう結びつき、どのような意義があるのか、そして自らの将来を考え想像するきっかけになってくれたらと思います。



後援部情報

2023 年度 PTA 後援部活動状況について

後援部長

後援部は、PTA 会費の一部を生徒や教職員の教育環境に役立つよう、どのような支援をするか検討し、実行していく役割を担っています。その為、主に施設・設備並びに教育用備品に関する支援について、中長期的視点をもって検討を行っています。

2023 年度は、コロナの5類移行を受けて学校活動が正常化する中、これまで以上に活発化するクラブ活動や教育活動を支援の基軸に据えると共に、直近で頻発する自然災害への対策についても、学校と議論を重ねてまいりました。クラブ活動支援においては、野球部・水泳部・剣道部・陸上部・ハンドボール部・ラグビー部・吹奏楽部等より、顧問の先生を通じて多くの支援要請を頂きました。教育活動・設備関連では、大活躍した生徒の皆さんの輝かしい実績をPRするための横断幕設置や渡航支援、プール更衣室環境整備、自然災害対応としての非常用バッテリーの導入を行いました。また、増穂祭で出展した「後援部カフェ」では、本年度も施設・設備に関する沢山のご意見を頂戴しました。頂戴したご意見を踏まえ、今後も老朽化した備品・設備や新しく必要と思われる物の支援の検討を行い、快適な環境で学校生活を行って頂けるよう活動してまいります。引き続き、皆様のご理解とご協力を頂きたいと、宜しくお願いします。



<第3グラウンド横断幕>



<ラグビー部 タックルマット>

## 吹奏楽部

### 活動のご報告・定期演奏会のお知らせ

中高吹奏楽部はこの冬も精力的に活動することができました。12月24日に本校グリーンホールにてアンサンブルコンサートを開催し保護者の方をはじめ、お招きした皆さまに心ゆいクリスマスイブをお過ごしいただきました。

また2月には東葛飾地区個人コンクールに中高合わせて6名が参加しました。

高校部長が高校生トロンボーン部門で金賞に輝いたほか、銀賞も数多く獲得することができました。

4月29日(祝)柏市民文化会館にて(開場14:30/開演15:00)、第37回定期演奏会を開催いたします。

「くるみ割り人形より3つのダンスメドレー」「sing sing sing」「銀河鉄道999」など多彩な曲目に挑戦する予定です。皆さまにご満足いただけますよう部員一同懸命に練習に励んでおります。ご家族ご友人をお誘いあわせの上会場に足をお運びくだされば幸いです。

## 社会科

### 高校生のための外務省訪問

12月7日テスト最終日の放課後、外務省への訪問と見学の機会があり、国際関係に関心のある高校1～2年生13名が参加しました。テレビのニュースで放映されることも多い記者会見室(写真)を見学した後、国際会議室にて、本校の卒業生で外務省職員として活躍されている江口美幸さんからの講演を聞くことができました。ご本人が活躍されてきたインドでの経験を中心とした内容、安倍首相とモディ首相の首脳会談をコーディネートした経験談などに、参加した生徒全員が熱心に聞き入っていました。今回の経験を通して、一人一人が国際社会への関心を強め、将来の進路の選択肢を考える上での学びにつながっていくことを期待したいと思います。



## 水泳部

### 中学男女で全国大会出場決定!

中学水泳部は、1月に開催されたジュニアオリンピック関東予選へ出場しました。男子は2日間で5試合というハードスケジュールでしたが、2日目の3試合はすべて3点差での接戦を勝ちきり、本戦出場を果たしました。男子の春季ジュニアオリンピック出場は6年ぶりの快挙です。女子は代表決定戦を2点差で勝利し、19回目の本戦出場を決めました。全国大会は3月26日～30日に千葉県国際総合水泳場で開催されます。

また、女子3名がU16千葉県選抜に選出されました。12月に岡山で開催された全日本ユース(U16)水球競技選手権大会へ出場し、第3位となりました。



## 探究活動

### アントレプレナーシップ教育活動報告

2023年12月26日に「高校生がやってみた!アントレプレナーシッププログラム成果報告会」に3名の生徒が参加しました。ビジネスプランを発表し、他校の高校生や社会人、教育関係者との交流を図りました。今年度は芝浦工業大学と連携し、起業家精神を醸成し、社会の問題解決を目的とした事業の提案などを図るアントレプレナーシップ教育に取り組んでいます。事前のワークショップでの経験を活かして、堂々と発表し、審査員からの質問にも即座に対応していました。他校の生徒は議員に密着したり、試作品を披露したりするなど学ぶところが多く、今後の活動の刺激になりました。



## 生徒会

### 生徒会本部役員の再編成を行いました

昨年の10月の生徒会会則改定により、本部役員の任期が9月1日～8月31日までとなりました。それに伴い、第43期生徒会本部の任期が17カ月に伸びます。そのため1月26日に追加で任命式と認証式を行い、本部役員の再編成を行いました。今回の再編成では、補助役員だった1年生が本部役員の庶務になりました。1年生が新たに加わったことで、本部内に新しい風が吹き、より多角的な視点で柔軟に活動を行えるようになりました。これからも生徒会をよりよくするために本部役員一同精進してまいりますので、生徒会本部活動へのご理解とご協力よろしくお祈りいたします。



## 演劇部

### 地区連覇で県大会へ

昨年11月、千葉県高校演劇第四地区秋季発表会が開催され、春の大会に続き最優秀賞を、同時に舞台美術賞、音響賞(2年生)、演技賞(2年生)を受賞しました。その約3週間後、同演目にさらに磨きをかけて臨んだ千葉県高等学校演劇研究中央発表会では、出場14校中第5位の成績を収めました。今回演じた「雨はワタシの背中を押す」は、部員同士で様々な工夫と改善を重ね、テンポよく笑いと涙が織り込まれた安定感のある作品に仕上がりました。ぜひ一度、校内公演等にお越しいただき、演劇部員たちが作り出す世界をお楽しみいただければ幸いです。

